

カール・マルクス (Karl Marx) (1818~1883)

1818年に生まれた、ドイツの経済学者、哲学者、ジャーナリスト、革命家。ドイツの哲学、イギリスの古典派経済学、フランスの社会主義理論を統合して、資本主義批判と歴史の弁証法的把握を行った。人類の歴史を「階級闘争」の歴史ととらえ、その根底に生産手段の私的所有があるとした。近代において、貨幣を媒介とする商品市場が成立し、産業革命を経ながら貨幣が資本へと転化し、資本が自己増殖し、賃労働者（プロレタリアート）が窮乏化する必然性を解明した。それは『資本論』（第1巻、1867）に集大成された。実践的には、資本主義を乗り越える共産主義・社会主義を提唱し、『共産党宣言』を1848年に起草し、第一インターナショナル



を1864年に創設した。1883年に没したが、彼の思想は世界的に影響を及ぼし、レーニンの率いるロシア革命の成功(1917年)など社会主義国の形成へと連なっていった。ソ連圏崩壊(1991年)の後も、今日の世界金融危機・恐慌のなかでマルクス理論への再注目がなされている。

彼の主な著作

- 『経済学・哲学草稿』(1844)
- 『ドイツ・イデオロギー』(エンゲルスと共著、1845-46)
- 『共産党宣言』(エンゲルスと共著、1848)
- 『ルイボナパルトのブリュメール18日』
- 『フョイエルバッハに関するテーゼ』
- 『ゴータ綱領批判』
- 『資本論』第1巻(1867)